



平成30年5月14日

各位

会社名株式会社エムアップ  
代表者名代表取締役美藤宏一郎  
(コード番号: 3661)  
問い合わせ先 取締役総務経理部長 藤池季樹  
TEL. 03-5467-7125

## 特別損失・営業外損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

本日、平成30年5月14日開催の取締役会において、特別損失を計上するとともに、最近の業績動向等も踏まえ平成29年5月15日に公表いたしました平成30年3月期通期の業績予想を修正することを決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

### 1. 特別損失の計上について

#### 1) 投資有価証券評価損の計上について（連結及び個別）

当社の投資先企業において、ソフトウェアの減損処理を実施し、当該企業の純資産が減少いたしました。そのため、当社が保有する「投資有価証券」に区分される有価証券について、あらためて評価した結果、減損処理による投資有価証券評価損として133百万円を特別損失に計上することにいたしました。

#### 2) 減損損失について（連結）

株式会社WEARE（代表取締役 小田 恒壽）では、平成30年3月期より提供を開始した各種アプリについて、その開発費の一部をソフトウェアとして資産計上しておりましたが、当初の想定以上に開発費が生じておりました。また、親会社である当社ではサービスに係る開発費は設立以来、原則として資産計上せず費用計上しており、子会社である株式会社WEAREのアプリに関しても同様の取り扱いをすることといたしました。そのため、資産計上されたソフトウェアの帳簿価額38百万円を減損損失として計上することにいたしました。

当該アプリについては、今後もサービスを継続、発展させるとともに、他グループ等への導入も計画しております。そのため、減損損失の計上は、財務体質を改善させ、将来の収益力の向上に備えるものです。

#### 3) 関係会社株式評価損について（個別）

連結子会社であるWEAREの減損損失計上に伴い、当社の個別決算において、関係会社株式評価損として9百万円を特別損失に計上いたします。

### 2. 営業外損失の計上について

#### 関係会社株式の評価損について（個別）

上記、連結子会社であるWEAREの減損損失計上に伴い、当社の個別決算において、同社への貸付金について貸倒引当金繰入額60百万円を営業外損失に計上いたしました。

なお、今後、同社の財政状態の改善がした場合は、当該貸付金が回収されることにより、営業外収益として当該貸倒引当金の戻入益が発生する見込みです。

3. 平成30年3月期連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想（A）	3,200	470	470	310	41 61
今回予想（B）	3,683	309	434	96	12 98
増減額（B-A）	483	△166	△36	△214	
増減率（％）	15.1	△34.2	△7.6	△69.0	
（ご参考）前期実績 （平成29年3月期）	3,711	426	467	310	41 63

3. 平成30年3月期個別業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想（A）	3,200	470	470	310	41 61
今回予想（B）	3,167	384	444	145	19 53
増減額（B-A）	△33	△86	△26	△165	
増減率（％）	△1.0	△18.2	△5.5	△53.2	
（ご参考）前期実績 （平成29年3月期）	3,572	453	495	296	39 75

4. 修正の理由

（連結）

通期の業績につきまして、売上高は子会社によるアプリの配信開始等により計画を上回り推移いたしました。

その一方で、子会社を中心に新規事業において想定以上の開発費が発生したことから、売上原価が上昇し営業利益は当初の想定を下回る見込みとなりました。

営業外収益として投資有価証券売却益を計上いたしましたでしたが、営業利益の減少を補うには至りませんでした。

当期純利益につきましては、上記1、1）及び2）に記載いたしました通り、特別損失の計上による影響により、業績予想を下回る見込みです。

（個別）

通期の業績につきまして、売上高は概ね計画通りに推移いたしました。

子会社を中心に、当社グループ全体として取り組む新規事業への先行投資として人員の採用を強化したことから、売上原価や販売費及び一般管理費が増加し、営業利益は想定を下回る見込みとなりました。

経常利益については、連結に記載の通り、想定通りをやや下回り推移しております。

当期純利益につきましては、上記1に記載いたしました通り営業外損失及び特別損失を計上するため、業績予想を下回る見込みです。

（注）上記予想値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以上